

## 気候情報

### 2012年8月の日本の天候

- 北日本から西日本では高温、東日本と東北地方で少雨・多照
- 西日本を中心に局地的な大雨が発生
- 沖縄・奄美では記録的な多雨

#### 8月の天気概況

太平洋高気圧が本州付近に張り出したため、北日本から西日本では月平均気温が高かった。特に月のはじめは気温が平年を大幅に上回り広い範囲で猛暑日となった。その後は一旦平年程度に暑さはおさまったものの、月の後半は北日本と東日本を中心に気温が再び平年を上回り、所々で猛暑日となる状態が続いた。北日本と東日本では下旬の気温がかなり高かった。また、東日本を中心に晴れの日が多く、東日本と東北地方では日照時間が多く、降水量が少なかった。一方、西日本を中心に太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、局地的な大雨や雷雨となった所があった。特に、13～14日にかけて、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となった。沖縄・奄美では、上旬に台風第9号、第11号、下旬には台風第14号、第15号の影響を受けたため、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なく、気温は低かった。

**上旬：**本州付近は、旬のはじめに台風第10号が九州の南を西北西に進んだ影響で西日本を中心に曇りや雨の所があった。その後は7日頃まで、本州付近は太平洋高気圧に覆われて晴れて、気温が平年を大幅に上回り広い範囲で猛暑日となった。一方、大気の状態が不安定となり所々で局地的な大雨や雷雨となった。北海道は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。沖縄・奄美では、旬のはじめに台風第9号が八重山諸島の南を西よりに進み、旬の中頃に台風第11号が沖縄・奄美付近を西よりに進んだ影響で曇りや雨の日が多く、8月上旬としては統計を開始した1961年以降、降水量が最も多く、日照時間が最も少ない値を更新した。

**中旬：**太平洋高気圧は日本の東海上で強く、日本付近に張り出したため、全国的に晴れの日が多く気温が高くなり、特に旬の中頃以降猛暑日となった所があった。一方、太平洋高気圧の縁を回って南から暖かく湿った空気が流れ込みやすく大気の状態が不安定となったため、西日本を中心に大雨や雷雨となった所があった。特に、13～14日にかけては、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下して本州付近に達し、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。

**下旬：**太平洋高気圧の北への張り出しが強くなり、北日本から東日本にかけて晴れの日が多かったが、西日本太平洋側では、南からの暖かく湿った気流の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。北日本と東日本の気温

はかなり高く、北日本では8月下旬の気温としては、統計を開始した1961年以降最も高い値を更新した。沖縄・奄美では、台風第14号や26日に大型で非常に強い勢力で沖縄本島付近を通過した台風第15号の影響で、曇りや雨の日が多く、8月下旬の降水量は統計を開始した1961年以降最も多く、日照時間はかなり少なく、気温は低かった。

#### 8月の気候統計

**月平均気温：**北日本から西日本では高く、北・東日本で平年を1°C以上上回った。沖縄・奄美では低かった。

**月降水量：**沖縄・奄美でかなり多く、平年の200%を上回った。北日本太平洋側ではかなり少なく、東日本で少なかった。北日本日本海側、西日本では平年並だった。

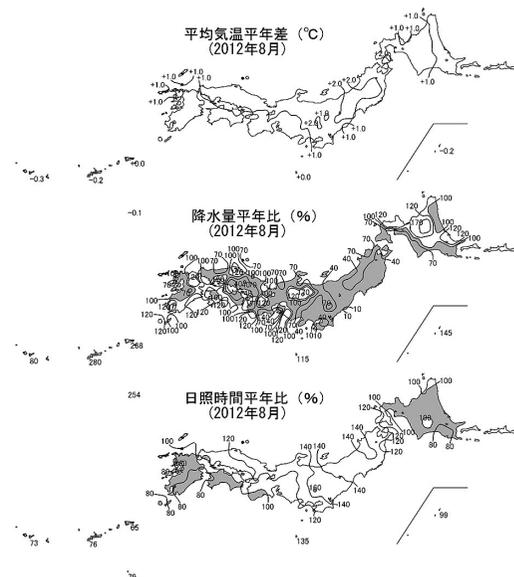
**月間日照時間：**東日本でかなり多く、北日本で多かった。沖縄・奄美でかなり少なく、西日本で平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

#### 8月の記録(1位更新のみ)

- ・月降水量多い方から (mm)  
与那国島 528.5 久米島 606.5 沖永良部 834.5
- ・月降水量少ない方から (mm)  
河口湖 26.5
- ・月間日照時間多い方から (時間)  
白河 223.4 小名浜 283.2 軽井沢 257.7  
水戸 267.6 館野 266.7
- ・月間日照時間少ない方から (時間)  
名護 155.7

#### 2012年8月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。